

## 教員おすすめ図書コーナー推薦書

教員氏名	
高松 正毅 先生	おすすめメッセージ
<p>① 図書名：『清少納言がみていた宇宙と、わたしたちのみている宇宙は同じなのか?: 新しい博物学への招待』</p> <p>著者：池内 了 (2021)</p> <p>出版社：青土社 ISBN：9784791774401</p>	<p>明治維新以降、日本は西洋近代科学の輸入に躍起となり、科学技術一辺倒の国へと変身してしまいました。経済や社会に役立つことばかりを求めるようになり、江戸の博物学は忘れられてしまった。そして、それが現代にまで及んでいる。それゆえに、著者の池内了は池内流の「新しい博物学」を目指そうとしたという。</p> <p>清少納言は夜空をつぶさに見つめたわけではなく、古辞書『和名類聚抄』によって『枕草子』に星々について記した(第1章「すばる」)。また、紫式部が『紫式部日記』に清少納言をあしざまに書いたのは、夫である藤原宣孝について『枕草子』に悪く書かれたことへの報復であったとする(第9章「ふぐ」)ことなど、日本古典文学の立場からもたいへん楽しく読める一冊である。</p>
<p>② 図書名：『同志少女よ、敵を撃て』</p> <p>著者：逢坂 冬馬 (2021)</p> <p>出版社：早川書房 ISBN：9784152100641</p>	<p>本書は、第二次世界大戦下、セラフィマという16歳のロシア人少女が、ナチスドイツとの戦いに狙撃兵として従軍する物語である。物語は完全にフィクションであるが、当時のソ連に女性兵士が実在したのは事実である。読者としてはセラフィマの視点に立ち、ドイツ兵を憎みながら読み進めるであろう。しかし自分は、現実の世界に戻ると、ヒトラーをプーチン、ロシアとセラフィマをウクライナとウクライナ人として感情移入していた。戦争に善も悪もない。また、非道な虐殺や殺戮は一方向的にのみ行われるものでもない。戦争はなぜいけないのかにくどくどしい理由づけなど不要なことを感得させられる。同時に、書名の「敵を撃て」の「敵」とは一体誰なのかを、深く考えさせられる。ロシアがウクライナを侵略した今だからこそ、是非とも読んで欲しい一冊である。</p>
<p>③ 図書名：『仕事 2.0 人生 100 年時代の変身力』</p> <p>著者：佐藤 留美 (2018)</p> <p>出版社：幻冬舎(NewsPicks Book) ISBN：9784344033337</p>	<p>2021年に出た続編の『LIFE SHIFT 2』(東洋経済新報社)を推薦したいと考えていたが、むしろ、日本に特化して書かれ、かつ読みやすい本書を推薦しよう。帯には「一つの会社で一生を終えることはもはや不可能。」とある。高度経済成長を支えた年功序列型賃金体系や終身雇用制は消失し、同一労働同一賃金という考え方のもと能力給が広まりつつある。また、人生100年時代の到来により、老後の生活は、国にも企業にも頼ることはできない。安倍晋三首相が唱えた「一億総活躍社会」とは、女性や高齢者をも含んだ「一億総働け社会」に他ならない。大学生である今から、有形資産はもちろん、健康や人脈、学び続ける力といった無形資産形成を目指すべきことを、本書を通じて強く実感してもらいたい。</p>